

剽窃

論文発表における最も一般的な不正行為は剽窃、すなわち著者が他人の論文を許可、クレジット、承認なしに意図的に利用するものです。剽窃には、言葉通り複製することから、他人の論文の言い換えまでさまざまな形態があり、以下のものが対象として含まれます。

- データ
- 言葉やフレーズ
- アイデアや概念

剽窃の程度も多岐にわたります。

- 他人の論文をどれだけ利用しているか。数行、数段落、それとも全部？
- 何を複製したのか。結果、方法、序文？

論文においては、常に引用情報を明記することを忘れないでください(アドバイザーや自身の過去の論文も含む)。自分の研究を常にその研究分野という背景の中に位置づけ、自分の研究の土台となった成果を認めることが重要です。

剽窃に関する指針と防止方法*

行為	内容	非倫理的？	取るべき行動
言葉どおりの複写	原典の許可や承認なく、全体または一部を一言一句複写すること。	はい。 言葉どおりの複写は、出典を明記し、複写した文章を引用符号でくくった場合にのみ許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用する文献および自分の論文内でそれを使用する箇所については、研究中から常に記録しておく。 ■ 論文の中で引用であることを十分に示し、原典を適切に引用する。 ■ 適切に引用情報を記載した場合でも、引用符号でくくる場合を除き、他人の論文をそのままの言葉どおりに使用することは避ける。
大幅な複写	これには、研究の材料、プロセス、表、装置などが含まれます。	はい。 「大幅な」とは、複写の質と量の両方を意味します。自分の論文が他人の論文の本質的な点を利用する場合は、引用情報を記載する必要があります	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の論文が元の著者のスキルや判断を利用していないか自問する。 ■ その答えが「はい」である程度によって、大幅な複写であるかどうかかわかる。 ■ 大幅な複写である場合は、必ず原典を引用する。
言い換え	言葉どおりの複写ではなくても、原典の許可や承認なしに、他人のアイデアを再現することを意味します。	はい。 言い換えは、出典を挙げ、原典の意図を変えない場合のみ許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原著者の意図を確実に理解する。 ■ 完全に理解していない言葉はコピー&ペーストをしない。 ■ 原典の基本的なアイデアが自身の論文にどのように関連しているか、引用せずに情報を他人に提供できるかどうかを考える。 ■ 言い換えと原典を比較し、言葉を変えても意味を保持していることを確認する。
テキストの再利用	自身の論文の一部を複写し、まったく新しい論文として再投稿すること。	はい。 二重投稿に関するファクトシートを参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の言葉を再利用する場合でも、過去の発表論文から直接引用した箇所はすべて引用符で囲む。 ■ 適切に出典を明記する。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献

1. 出版倫理委員会による適正な出版手続きに関するガイドライン。出版倫理委員会(COPE)。1999年、アクセス日:2012年6月15日
2. エルゼビア。出版倫理リソース・キット(PERK)。ウェブサイト:<http://www.elsevier.com/wps/find/editorshome.editors/Introduction> アクセス日:2012年6月11日